

## 薬連ハイライト

## 年頭所感



衆議院議員・薬剤師

## 逢坂 誠二

新年あけましておめでとうございます。  
岩月進会長はじめ、日本薬剤師会の皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また日頃より逢坂誠二の議員活動に対しまして、特段のご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

また昨年は年初に能登半島地震に襲われましたが、発災直後の混乱期より日薬によるモバイルファーマシーが稼働し、その威力を発揮したと聞いております。石川県薬剤師会はじめ全国から薬剤師の方々の応援を受け、医薬品の提供や被災者への聞き取りを丁寧に行い診療につなげる活動など、被災された方たちに寄り添った取り組みがなされましたこと、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

近年問題となっている医薬品の供給不足は、病気を抱えた患者さんが自分で何件も薬局に電話をかけ在庫を確認するなど、現状はますます厳しくなっております。様々な要因が語られておりますが、薬価の毎年改定がそれに拍車をかけており、なんとして

も薬価の毎年改定は廃止しなければなりません。厚生労働省、財務省の担当者だけでなく様々な場面で私も訴えております。

また薬剤師の業態や地域の偏在も大きな課題です。今後「在宅医療」が増大する予測もあり、「医療提供施設」としての「薬局」、「医療の担い手」としての「薬剤師」の存在は医療提供体制の中で着実にその役割が大きくなってきます。本年の通常国会には薬機法の改正も議論される予定です。調剤業務の一部外部委託化や薬局機能の在り方、医薬品の販売区分及び販売方法の見直しなど議論されていますが、OTC医薬品の濫用を防ぐためにも、患者のための医薬品提供体制は極めて重要です。

日本薬剤師会、薬剤師の皆様と力を合わせ、山積する課題解決のために、私逢坂誠二は、引き続き国会の場で全力を尽くしてまいります。

この一年が皆様にとりまして、さらなる飛躍の年となりますことを心から祈念し年頭のご挨拶といたします。

## 新しい年を迎えて



参議院議員・薬剤師

## 本田 顕子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。  
公益社団法人日本薬剤師会会員の皆様におかれましては、穏やかに新たな年を迎えられたことと存じます。

昨年は元日に能登半島地震が発生しました。復旧・復興に向けた活動は、被災地の皆様のご努力と全国からの温かいご協力に支えられながら今も続けられています。その日から1年、大規模災害に見舞われた全国各地の一日も早い復旧・復興を願うにあたり、改めて防災対策の強化・徹底の必要性を痛切に感じます。

昨年は第8次医療計画の下で地域の実情に即した医療提供体制が動き出した年でもありました。報酬上の評価と連動させた形で医療政策の実効性を高め、地域医療構想を実現へと導く大事な時期を迎えています。そのため、物価高対策や賃上げにつながる経済対策を講じつつ、地域医療介護総合確保基金の活用等を通じて必要な医療人材を確保のうえ、五疾病六事業、在宅医療の全てにおいて薬局の機能および薬剤師の職能を遺憾なく発揮して、地域医療を支えていただくことを祈念します。

本年は巳年。

「生命（いのち）」や「生命力」を象徴するヘビは医療との縁が深いとされ、薬学のシンボルとも言われる「ヒュギエア（Hygieia）の杯（さかずき）」にはヘビが巻き付いています。

薬機法改正、電子処方箋の普及などに伴う薬局のDX化、そして医薬品供給不足の解消など、本年も喫緊の課題への対応が控えております。

そのような中、「健康」、「衛生」といった言葉の語源とも言われる女神ヒュギエアに倣い、参議院議員としての5年余りの経験と、その間の約2年に及ぶ大臣政務官としての実績を生かし、これからも課題解決と政策実現に力を尽くしてまいります。

現在は自民党女性局長の役職をいただいております。重責ではありますがむしろ誇りに思い、党の信頼回復に努めるとともに、皆様の期待に応えられるよう活動してまいります。

結びに、日本薬剤師会会員の皆様にとりまして本年が実り多き1年となりますことをお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

2025年も変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。

# 令和7年度年頭所感



参議院議員・薬剤師

## 神谷 政幸

新年明けましておめでとうございます。日本薬剤師会会員の先生方におかれましては、お健やかに輝かしい新年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より温かいご支援を賜っておりますこと、この場をお借りいたしまして、深く御礼を申し上げます。

初当選から約2年半が過ぎました。昨年6月21日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2024」いわゆる骨太の方針は、私にとって2度目の経験でしたが、とても印象深いものでした。自民党内の政調全体会議と厚労部会において、医薬品供給不安解消の必要性について、その記載がない点を指摘したところ、足下の医薬品の供給不安解消に取り組むという文言が追記されました。また薬価基準の中間年改定に関して、現在のインフレが薬局や医薬品卸、製薬企業に与えている影響を強く訴えたところ、安定供給確保の必要性、物価上昇など取り巻く環境の変化を踏まえ、その在り方について検討する

旨が追記されました。

さらに様々な活動によって、今回の骨太2024に調剤録等の薬局情報のDX・標準化の検討を進めることが記載されたことは、薬局・薬剤師にとって大きな一歩を踏み出したものでありました。持続可能な社会保障制度の構築に、薬局・薬剤師の果たす役割は益々大きくなると思います。骨太2024に書き込まれた医療DX推進や安定的な医薬品提供体制の確保についても、今後の動きに注目しつつ、政治の立場から発言し続けてまいります。

参議院議員2人体制を堅持し、本田顕子先生と共に皆様の声を国政の場に届け、国民や患者さんに対し、安心・安全な薬物療法の提供等にご尽力されておられる先生方のお役に立てるよう、本年もしっかりと仕事をしてまいります。引き続きご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

日本薬剤師会会員の先生方の益々のご活躍と、会員の皆様にとって本年が素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

### 本田顕子参議院議員、自由民主党女性局長に就任

令和6年11月15日、本田顕子参議院議員が、自民党女性局長に就任した。

自民党女性局は、全国の都道府県連女性局とともに、女性局の活動の柱である児童虐待防止「ハッピーオレンジ運動」の推進のほか、こども家庭庁を司令塔としたこども政策を後押しする取り組みを進めている。

また、先の能登半島地震では、女性視点の防災の在り方について提言を取りまとめるなど、激甚化する自然災害に対応するため、女性やこども、高齢者など多様なニーズに寄り添った防災・減災対策の推進に努めている。

さらに、自由民主党では、2033年までに女性国会議員の割合を現在の13%から30%に引き上げることを目標としており、女性局では令和2年より「女性未来塾特別講座女性候補者育成コース」を開講し、即戦力となる女性候補者の発掘・育成に注力してき

た。これまでに、本講座修了生から、国会議員や、多くの地方議員を輩出しており、今後も有為な人材を確保するための取り組みを進めていく。

女性組織を持つ関係団体との意見交換会である「ウーマノミクス会議」や女性対話集会「いどばたキャラバン」の開催などを通じて、さらなる党勢拡大を図る。

女性局の活動については、フェイスブック、Xで発信される。(女性局ホームページより抜粋)



第97代女性局長

**本田 あきこ**

参議院議員

